

阿波範士言行録稿本

分類九 「四二一〜五〇」

「道を探求して人生の大義を悟れ」

(見鳳と号せし時代某年八月三日段級審査会における教示なり・阿波家蔵)

大日本武徳会範士

大射道教主 阿波見鳳

弓道を民衆に普及して其蹟を挙げて人生を導くとするならば斯道者即ち指導者は時代意識の尖端を切らねばならぬ、今までは昔のものを型的に其のまゝ技巧を本旨に教へて居つて人間開発には殆んど行詰まつて居る。

教育者は教育改造の実績を挙げて時代意識の尖端を廻つて居つて教育思潮が右往左往たるの有様なのではないか。弓道は古物保存ではないのである。昔より達識者は出でて時代時代の尖端を切り思想的に道徳的に宗教的に其働きを見せ而して基本としては我等の国体精神を縦とし、神道、儒教、仏教等の大口理を横として織込んだもので即ち之射の姿なのである。

昔は此の君子的射行を貴族的有識特権階級の人達だけに用ひられ

質実剛健の向上法として、修学修行されたものであるが、用ひるところの射心は各自其の識見の表徴であつたが故に射の大道を民衆に徹底させる事は出来なかつたのであるが、遂に維新後は殆んど遊樂的と變つてきたのである。

昔承久の乱に国史を汚す大失態を醸したのは北条氏不臣の罪たるを免れないとしても其実は是を支持して東海道を西に走つた関東の大軍は何んのために戦ひ、何を目標として行動すべきかを弁へなかつた無智の大衆ではなかつたか、武家政治の下にあつての民衆の無智は悲しむべきは当然である。

つまり射即ち弓も敵の射殺する為の武具にだけ用ひられて来たのは武家政治の弓であつたのであつて其の惰力は現在一般に行はれつゝある的中本位の射技なのである。孔孟の仁義礼智信の立看板は射行に依つて体系的に靈肉一致の度脱的最高の宝弓であつたのである。

□人達は「*前の□と同じ：「哲」？」幻想に依つて取扱ふあの内奥の声に耳を傾けなければならぬ、最高最善に悩みつゝ大自然の恒久平和を求めて居るのは濃厚なる大愛のリズムである、それで智識と行者と結合し為す事によつて学ばしむるは即ち射行なのである。

世は転変流転であるが思想も亦日の進につれて衰弱してゐる事に

気付くであらう。現今の弓術の技巧的やり方では世を救ふ事も人を済度する事もとても出来ない業である。殊に従来の遺産物の儘では現今に当てはまらぬ事は当然である。それによつて射芸より弓術、弓術より弓道、弓道より射道、射道より射教と進展して来たのであつて即ち道といふところに目をさらさなければならぬ、道を探求し教に依つて射即ち人生の大義を悟らねばならぬ、まことに之れは宏大無量なる大教である。

世の弓道指導者は弓道を以て人生を導くとしたならば百尺の竿更に今一步を進めなければならぬ。弓は的中を以て主眼とするならば指導者自身は其れだけの低級である。又人格指導者を以て任ずる者の人格を振り廻すならば夫れだけの低級さであるが、射といふ本質は德行即ちイズム以上に人格や個性を高潮せしめ、絶対真善美の極致を一つにまとまつた表徴の矢は眞の自己なのである。

現在の体育としての弓道は割合に精神的試練を基礎としていない傾向であるがために勝負を問題としてゐるだけに見苦しい野獸的な闘争さへ繰返してゐる事を見受ける。運動体育による試練は道の欠けたる時直に暴力の容器となるものである。それで射界を申せば論じつきせぬが「射は君子の道なり」を修する道行にして身心頓□「*悟？」の大教なのである。

参禅も座禅も一切の肉の試練の教を以て完全なる悟境の人間を創

造する方法であるが其の容易に到達する事を得ざるところである。

然るに射教は身心頓悟の妙道を速達する最大の方法にして即ち衆生済度の大教なのである。故に大射道教と命せざるを得ぬ次第なのである。本教の人々は射に永遠の世を受けて濁世の人間を救済すれば足りるのである。世人の参考にもなるまいが射界の一端を示せば百発百中を教へるところ否百中の境は習射の位置としてゆみを完全に不安なく引かしめる処なのであつて、射の内容に触れて居ないのであるが、整形、練膽(度)、知発(断)、成息(運行)、力税「*明らかにかに力脱の誤り」、練氣(氣運)、開氣(活用)一而して統一である、之を習射の本となすものである。

次の階級は射裡見性、性射、相對射、射識、心識、絶対射、射脱、覚証、頓悟而して射生の妙境に到達するのであるが、夫れが即ち射教に依て人事一切に射行を以て射徳を表現せしめ離念の継続、直線光明の透的を行ぜしめつゝ菩薩行の本流を経て射生の妙境に突入するのである。無教の射は凡射の窮極となり退転するものである。此射教は宗教的教ではなく大自然の大教なのであらゆる宗教を超越したるものである。

しや教は性情怠なるもの、忍耐心に乏しきもの、注意力に散漫し居るもの、持続性に欠けたるもの、性薄にして残忍性に富めるもの、智的方面に欠けたるもの之等の欠陥を補ひ、指導善任「*化？」せ

しむることに容易ならしむるものである。会員に示す

一、しや教の妙音たつしやを以て人の精気を養ひ心質を豊ならめよ。

一、大自然の啓示たるしや教を以て森羅万象の大徳を民衆に休養せしめよ

一、人倫の大経たるしや教を以て主「*?」仁純愛の発露を社会に
現実せしめよ

一、しや教を以て人の靈識を純化し口威を莊嚴ならしめよ

一、しや教は人の志気を鍛錬し剛毅廉直ならしむ

一、しや教は輕佻浮華なる思想を健全化す

一、しや教は伝統的精神の流水を浄化して新生命を与ふ

一、しや教は以て同胞の幸福を進展せしめ人格建造の大業なり

一、吾等の一箭は心靈の覺養である。一意専心、しやと事業と一枚
に一貫したる生命を見出して行け

而して各自衆智融合の力を以て後進を導かんことを

(八月三日 審査会にて)